The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	図書の要約文における「名詞の助数詞的用法」：新聞との比較から
Author(s)	東条，佳奈
Citation	現代日本語研究. 2025, 16, p. 19-34
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102438
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

図書の要約文における「名詞の助数詞的用法」

―新聞との比較から―

Nouns Used as Classifiers in Book Summaries:
In Comparison with Findings Obtained from Newspapers

東条　佳奈
TOJO Kana

キーワード：名詞，助数詞，準助数詞，擬似助数詞，『学術研究用 BOOK データ集 10yrs』，要約文

要　旨

本稿では，名詞の助数詞的用法が新聞以外の書き言葉資料にも現れうるのか，また，その場合どのような特徴があるのかを目的に，書誌データベース内に収録されている図書の要約文を対象に調査を行った。その結果，新聞とも共通して得られる語例があること，その多くが準助数詞であることを確認した。一方で，図書の要約文においては『分類語彙表―増補改訂版―』における〈人間活動―精神および行為〉の意味分野の擬似助数詞が多いなど，資料の性質や目的が名詞の助数詞的用法に影響を与えていること，特に擬似助数詞は資料の特徴に左右されやすいことが分かった。

１．はじめに

日本語ではものを数える際「本を 2 冊買う」の「-冊」のように，助数詞と呼ばれる接辞を用いる。従来の助数詞研究においては，数詞と切り離せないものが主に助数詞として扱われ，分析の対象とされてきた。しかし，実際の使用という面からみると「3 項目挙げる」の「-項目」のように，自立語である名詞が数詞に続いて用いられるものがある。こうした数詞に後接する名詞については，「名詞と同形の助数詞」として分類を行った成田（1990）をはじめ，Downing

（1996），名詞から新たに助数詞が成立する過程を論じた田中の一連の研究（田中 2014，2015，2019 他）など，現在は数詞に続いた名詞を助数詞として捉える研究も増えている。

眞野・米澤（2013:142）では，（1）のように，名詞と同形か否かに関わらず，助数詞を以下のような条件を満たすものと定義している。

（1）a．数詞に後接する。
　　b．数えられている対象を示す名詞と共起する。
　　c．「何（なん）-」に後接し，数を質問する意味となる。

また，名詞と助数詞の連続性を論じる田中（2012,2015）では，数詞に続く名詞のうち，対象を示す名詞との共起のほか，副詞的位置に立てるものを助数詞であるとしている。このように，どの範囲までを助数詞と認めるかについては，様々な立場がある。

しかし，数詞に後接する名詞には（2）の「3 議員」の「-議員」のように，上記の条件を満たさないものが存在する。

（2）3 議員を除名した。（数詞に後接する）
　　*3 議員の議員を除名した。（対象を示す名詞との共起不可）
　　*何議員を除名しますか？（何-に後接しない）
　　*議員を 3 議員除名した。（副詞的位置に立てない）

（2）から「-議員」は，数詞には後接しているものの，助数詞と捉えることはできない。加えてこれらは「1 議員，2 議員…」と数を数え上げることができない名詞であるといえる。このような助数詞でない，数詞に後接した名詞を，東条（2014a）では見かけのみの助数詞であることから「擬似助数詞」と呼び，助数詞として浸透しつつある名詞（「準助数詞」）と区別している。さらに，新聞を資料にして収集した「擬似助数詞」が，職業・社会的な立場や位置づけを示す意味分野の名詞に多いことを指摘している。

「擬似助数詞」は，助数詞ではないために，従来の助数詞研究の対象にはほ

とんどされてこなかった。しかし,「名詞と同形の助数詞」も「擬似助数詞」も,数詞に後接している要素は名詞であるという観点でいえば,いずれも「名詞を助数詞のように用いたもの」と捉えることができる。つまり,名詞の中に,ものを数え上げることができる語とできない語とがある,ということになる。両者がどのように区別されるのか,どのように異なる機能を持つのかを明らかにするためには,様々な資料よりこれらの表現を抽出し,検討する必要がある。

本稿では数詞に続く名詞を「名詞の助数詞的用法」とし,従来助数詞ではないとされてきたものも含めて包括的に扱う。その上で,書誌データベースの要約文より語例を収集した結果を示す。

２.「名詞の助数詞的用法」の特徴

本稿で扱う「名詞の助数詞的用法」にどのような特徴があり,これらをどのような類型と捉えられるかについて,本研究の出発点となる東条（2014a,b）の内容を元にまとめたい。

東条（2014a）では,数詞に直結した名詞を「名詞と同形の助数詞」として分類して特徴をまとめた成田（1990）を参考に,新聞一年分のデータを用いて,より詳細な分類の作成とこれらの表現の類型化を試みた。ここでは数詞に続く名詞を「名詞型助数詞」と呼び,これらには「容器型助数詞」「準助数詞」「擬似助数詞」と呼ぶべき下位類があることを指摘した。それぞれの特徴は以下のようなものである：

(3) 「名詞の助数詞的用法」の類型と特徴

①容器型助数詞：

名詞起源ではあるが名詞の側面が希薄であり,「容器などを目安に,ある物の量を測る」という目的のためにもっぱら用いられるもの。

②非容器型助数詞：

容器型ではない,名詞の性質を残したまま数詞に続いているもの。「前に来る数に制限があるかどうか」(名詞の数を数え上げる性質）という「可付番性」の有無により,「準助数詞」と「擬似助数詞」に分けられる。

③準助数詞：

「3 項目挙げる」の「-項目」のように，その名詞を用いて数え上げることができるもの。前に来る数に制限がなく，典型的な助数詞に準じて助数詞体系を補うために使われる。これらは抽象的な関係を示す意味領域に多いという特徴をもつ。また，副詞的位置に生起できる語や特定の構文の型に偏らずに使用できるものを含む。

④擬似助数詞：

「3 容疑者を確保」の「-容疑者」のように，助数詞の形を模した名詞であるもの。数と名詞の結びつきが臨時的であるため，数を自由に入れ替えることができない。これらは人物や機関に関わる意味領域に多く，文型も N ノ QC 型（「A,B,C の 3 容疑者を逮捕」）や NQC 型（「防衛，外務など 4 閣僚を集め」）に偏るという傾向がある。

東条（2014a）は「可付番性」の有無という観点から，数詞に続く名詞に不定数である「何（なん）」を付加できるかどうかというテストを「非容器型助数詞」に行い，「何」を冠することができる名詞は，前に来る数に制限がなく，数を数え上げられるものであるとして③「準助数詞」と判断し，「何」をおくと不自然であれば，「数を数え上げることができない」臨時的な数と名詞の結びつきのものとして④「擬似助数詞」と判断した。その上で，両者が意味領域や構文の点で差異があることを示している。

しかし，上述した特徴は主に新聞資料を対象にした調査の結果である。東条（2020）では新聞と同様に書き言葉のメディアである「雑誌」資料を対象に試験的な調査を行っているが，レジスターが異なれば，その様相も異なる可能性がある。類型の一般化のためにも，より広汎な資料を対象とした調査を行う必要があると思われる。

そこで本稿では，書誌データベースの要約文を対象に，「助数詞的用法となる名詞があるか」を調査し，収集した語例にどのような特徴があるかについて調査を行った。

３．調査概要

３．１．調査資料

本調査では，トーハン・日本出版販売・紀伊國屋書店・日外アソシエーツの4 社が共同構築している国内書籍カタログデータベースに著作権処理を施し，学術利用版として販売されている[1)],『学術研究用 BOOK データ集 10yrs』の 2010 年 - 2019 年版（57 万件収録）を，日外アソシエーツとの許諾に基づき使用した。本データは，日本国内で刊行された書籍[2)]について，タイトル・著者・出版日・出版社・価格・版型・ページ数といった情報のほか，日本十進分類法，書店用分類コード，要旨，内容目次が収録されている。本調査ではこのうち，(4)のように本の情報をコンパクトにまとめている「要旨」の部分を使用した。

本資料（以降,「図書要約文」とする）を選定したのは，名詞の助数詞的用法，とりわけ擬似助数詞が，情報を効率的に伝達する媒体である新聞や，見出し文のような凝縮的表現に顕著に現れる傾向があったためである。情報を効率的に凝縮しているという点で，新聞とは異なる書き言葉の媒体における使用特徴を探りたいと考えた。

(4) 美術作品の作品名やキャプション，解説などに使われている「美術の言葉 153 種の「美術の言葉」を西洋美術，西洋建築，西洋工芸デザイン，日本美術，日本建築，色彩などのジャンルに分け解説。

『絵でわかるアートのコトバ』

３．２．調査方法

『学術研究用 BOOK データ集 10yrs』は，10 年分の書誌情報が 1 つのテキストファイルに格納されているため，作業の都合上，一旦，1 ファイル 1 万行になるように分割した。その中から，2010 年に刊行された書籍のみを抽出し，調査対象範囲とした。次に，それぞれ正規表現を用いて，算用数字の後ろに漢字，カタカナ（いずれも 2 文字以上），ひらがな（1 文字以上）が来るものという条件を指定し，grep 検索を行った。

次にそれぞれ得られた検索結果から，名詞と同形でない助数詞，ドルやメートルなどの単位，3 俵や 3 冠の「俵」「冠」など名詞として用いる際に異なる音形となる助数詞（一部に容器型助数詞を含む）を目視で除外した。なお，本調

査では，眞野（2021）の分類でいう，「名詞の数を数詞が示す関係」のものを助数詞的用法の語例として認め，順番を示す序数であるものや「数詞が主体の数を示す関係になるもの」（3 連続・3 連動など）は対象から外している。ただし，3 分割・3 分裂のような「数詞が結果の数を表すもの」については「名詞の数を数詞が示す関係」との区別が難しいものもあり，除外せずに残している。

このようにして得られた語例について，東条（2014a）と同様に，意味領域の分布の確認と可付番性の調査を行い，助数詞的用法の語例の表を作成する，という手順をとった。

意味領域の検討には，『分類語彙表―増補改訂版―』（以下，分類語彙表と表記）を用いて分類番号と照合し，部門と中項目を用いて分類した。同じ中項目内で分類項目が異なるものについては｜印を置いて区別した。なお，分類語彙表に記載のない語については，あてはまると思われる意味領域に分類[3]した。その際,容器そのものあるいは容器状のものを計量の目安としている語例は「容器型助数詞」として区別した。

次に，可付番性の調査として,「何（なん）」を冠する用例の有無を調査した。こちらも新聞での調査と同様に，検索エンジン Google を用いて，「何〇〇」の形で完全一致検索し，一例でも例があれば「可付番性あり」，すなわち準助数詞として認め，なければ「可付番性なし」，すなわち擬似助数詞と判断した。

４．助数詞的用法が見られた名詞

前述の手順で収集した「名詞の助数詞的用法」が表１である。表１では，分類語彙表の分類番号に基づいて，意味分野（部門），中項目，語例の順に示している。語例の冒頭の数字は中項目ごとの語例の数（種類）を，表内の二重下線部は東条（2014a）の 1991 年の毎日新聞を対象とした調査結果（表２）と共通して得られた語例であることを表している。

５.「図書要約文」の結果と分析

５．１.「図書要約文」から得られた助数詞的用法の語例

「図書要約文」からは 370 種の助数詞的用法の語例を得た。容器型助数詞にあたるものは「カップ」「さじ」「はこ」「パック」「ます」の 5 種で，非容器型

表１:「図書要約文」における準助数詞・擬似助数詞

意味分野	中項目	＜準助数詞＞（226種）	＜擬似助数詞＞（139種）
抽象的関係	事柄	(5)ケース、項目、例、個体、サンプル	(2)管理項目｜資料
	類	(31)カテゴリー、機種、業種、魚種、形式、犬種、工種、作例、車種、ジャンル、種類、症例、職種、スタイル、タイプ、パターン、品種、部門、文型、モデル、類型｜系統、段、段階、ランク、レベル｜因子、モチーフ、要因｜アクセス｜バリエーション	(4)技術部門、実例、重要判例、判例
	様相	(5)成分、要素｜キャラ、キャラクター、属性	(1)トラブル
	作用	(5)コース、チャネル、ルート｜往復分割	(3)改革、変化｜駄目
	時間	(4)チャンス｜シーズン｜ステップ｜部署	
	空間	(12)サイト、スポット、地点｜エリア、議席、区画、地域、地区、ブロック、分野、領域｜方向	(4)寄港地｜遺跡、行政区画、司教区
	形	(3) サイズ、図、ポーズ	
	量	(27)変量｜打点、得点｜チャンネル、変数｜単位、単元、ユニット｜カップル、グループ、シリーズ｜回転、行、句、組、けた、語、こま、字、シート、セット、つぶ、ドット、番地、ページ、ポイント、ラウンド	(2)額面｜ビジネスグループ
		計93種	計16種
人間活動の主体	人間		(4)魔女｜美少女｜少女、少年
	家族	(3)家族｜兄妹、兄弟	(2)王子｜姉妹
	人物	(3)支族｜聖人、選手	(4)住民｜政経人｜スーパー戦隊ヒーロー、烈士
	成員	(2)生産者、ミッション	(9)棋士、建築家、作家、詩人、俳人｜女性経営者、鉄道経営者｜戦士、武将
	公私	(5)家庭、都市｜区、市、都道府県	(2)大国｜特別区
	社会	(10)教室、社寺、大学｜駅、銀行、工場｜ショップ、店舗、病院、ホテル	(9)業界｜高校、大学院、短大、有名大学｜会計事務所、メガ損保｜水族館、整骨院
	機関	(11)局｜施設｜部隊｜球団、クラス、クラブ、自治体、団体、チーム、バンド、法人	(4)艦隊、軍団、自衛隊｜信用組合
		計34種	計34種
精神および行為	心	(18)レッスン｜区分、分類｜試験｜視点｜課題、題、テーマ、トピック、論点｜課目、科目、教科、講座｜法｜レシピ｜プラン、プロジェクト	(21)アイディア、疑問、考察｜論考｜定義、問題、テーゼ｜エコ、研究科、分科｜ガイドライン、信条｜原則、司法制、条例、鉄則、ペナ、法則、法令、ルール｜メソッド
	言語	(25)言語、ワード｜タイトル、ブランド、銘柄｜単語、品詞、フレーズ、書体、文字｜アカウント、図版、マップ｜メッセージ｜エピソード、講演、講義、設問｜楽章、チャプター、文書｜分冊、演目、品目、メニュー	(29)キーフレーズ｜画題、見出し、名字｜語呂、表現｜基礎知識、基本用語、熟語、動詞、方言、用語｜文法｜指標｜ドメイン｜情報｜ダイアローグ｜提案｜コラム、短編、文例、例文、レポート、論文｜古典、全詩集、典籍、法典、名盤
	芸術	(8)作品｜シナリオ、カット、図案、デザイン、曲、小節｜ネタ	(3)史伝、物語｜俳画
	生活	(10)安打、試合、盗塁、バット、ホームラン、ホール、本安打、本塁打、レース｜アクション	(3)ドームツアー｜ストレッチ、体操
	行為	(1)キャリア	(6)クエスト、任務｜資格｜技能、テクニック、ばか
	交わり	(3)セッション、大会｜作戦	(5)インタビュー｜協定、実務協定｜節税相談｜大陸戦
	待遇		(1)業務派遣
	経済	(2)ストック｜株	(3)公共財、重賞｜取引
	事業	(8)職業、ジョブ｜企業｜診療科｜公演、場所｜アプリ｜パッケージ	(4)介護サービス｜産業｜処方｜スキル
		計75種	計75種
生産物および用具	物品	(3)アイテム、物件｜商品	
	資材	(2)食材｜軸	
	食料	(1)食品	(1)たれ
	住居	(5)名城、メゾン｜部屋｜ステージ｜ドア	
	道具	(3)プレート｜キー｜カード	(1)画材
	機械	(1)チップ	(3)空母、重巡、戦艦
	土地利用	(1)路線	(2)競馬場、メジャーフィールド
		計16種	計7種
自然物および自然現象	自然	(2)コード、音色	
	物質		(1)元素
	天地	(5)星座、天体｜大陸｜シーン、場面	(4)岩場、高地、名山｜温泉
	動物		(1)にゃんこ
	生命	(1)疾患	(1)症状
		計8種	計7種

表２：「毎日新聞」（1991 年）における準助数詞・擬似助数詞 [4)]

意味分野	中項目	＜準助数詞＞228種	＜擬似助数詞＞147種
抽象的関係	事柄	(3) ***項目***、条項｜候補	(3) 事件｜不思議｜代表
	類	(21) ***機種***、業種、***車種***、種目、職種、事例、スタイル｜***種類***、***品種***、***部門***、ジャンル、***パターン***、モデル、***タイプ***｜***階級***、***系統***、***段階***、***段***、***ランク***｜条件、(因子)	
	様相	(3) 業態｜成分、要素	
	作用	(4) ***ルート***、コース｜***往復***｜***編成***	
	時間	(7) (昼夜)｜期間、(半期)、シーズン｜ステップ｜舞台｜場所	(3) 四半期、時期｜ポスト
	空間	(22) ***会場***、(基地)、球場、***地点***、(聖地)、部位、コーナー｜筋｜***枠***、***議席***、***区画***、区間、***口座***、(***選挙区***)、打席、地域、地区、分野、ゾーン、ブロック｜方面｜***画面***	(2) 焦点｜海域
	形	(1) サイズ	
	量	(37) 得点｜(周波数)、***チャンネル***、カウント｜気圧｜***けた***、***単位***｜***グループ***、***シリーズ***｜組、***こま***、ます、***回線***、学年、級、***句***、***節***、***字***、車線、世紀、***席***、世代、通話、頭身、馬力、***裏***、文、イニング、オクターブ、カロリー、***シート***、***セット***、***ページ***、ポイント、マイル、ラウンド、レーン	(1) 指数
		計98種	計9種
人間活動の主体	人間		(5) 女性｜少女、少年、青年、幼児
	家族	(2) ***家族***、兄弟	(1) 姉妹
	人物	(1) 選手	(10) 外国人、島民、邦人｜大統領｜藩士｜患者、新人、政治家、博士、要人
	成員	(4) 役｜アーチスト｜***業者***｜メーカー	(50) 委員、議員、組員、組合員、行員、市議、社員、署員、職員、隊員、町議｜記者、教師、教授、教諭、大関、作家、横綱、力士｜外相、閣僚、裁判官、常務、大使、頭取、判事、奉行、弁護士｜農家｜船員｜警官｜園児、学生、高校生、生徒｜兵士｜会長、学部長、幹部、議長、校長、市長、社長、首脳、知事｜側近｜監督、投手、被告、容疑者
	公私	(8) 家庭、***世帯***｜都市｜***区***、***市***、市町村、都道府県、州	(6) 個人｜加盟国、共和国、国家、大国｜首都
	社会	(16) フロア｜(教会)、教室、学部、大学、(寺院)｜***駅***、銀行、工場、(事務所)、(取引所)｜劇場、支店、***店舗***、病院、ホテル	(18) 高校、私大、小学校、大学院、短大｜証券取引所、商品取引所、ターミナル、金融機関、公社、鉱山、証券会社、信金、製鉄所、放送局｜画廊、商社、百貨店
	機関	(28) 機関、***支部***｜省庁｜***施設***｜(委員会)、議会｜部隊、(旅団)、(連隊)｜学級、***球団***、(協会)、***組合***、劇団、自治体、陣営、(政党)、(組織)、***団体***、***党***、派閥、***法人***、クラス、***クラブ***、サークル、***チーム***、パーティー、バンド	(13) 大使館｜県警、原子力発電所、原発、裁判所、発電所｜審議会｜シンジケート、リーグ、基金、地方自治体、野党、労組
		計59種	計103種
人間活動・精神および行為	心	(16) 区分、分別、分類｜議案、テーマ｜科目、教科、学科、講座｜説｜(法)｜方式、(制度)｜***案***、法案、***プラン***	(5) 選挙｜原則、条約、新法｜政策
	言語	(11) 言語｜銘柄、タイトル、ブランド｜単語｜***文字***｜(文書)｜演目、番組、***品目***、(プログラム)	(10) 地名｜漢字｜指標｜通達｜協議、決議｜声明、宣言、布告｜福音書
	芸術	(3) ***作品***｜カット｜***曲***	
	生活	(16) 安打、競技、***試合***、四球、(四死球)、盗塁、本塁打、ゲーム、(トライ)、バーディー、パット、ホーマー、ホール、ボギー、***レース***、(併殺)	(4) 公害｜スポーツ、ボーク、死球
	交わり	(3) (競技会)、***大会***｜引き分け	(3) 部会｜会見｜協定
	待遇	(1) セーブ	
	経済	(1) ***株***	
	事業	(3) 事業｜企業｜公演	(2) 現業、充電
		計54種	計24種
生産物および用具	物品	(1) ***商品***	(1) 証券
	衣料	(1) (ベッド)	
	資材	(1) ボタン	
	食料	(1) 食品	
	住居	(3) パビリオン｜***部屋***｜ドア	(1) 住宅
	道具		(1) 弾頭
	機械	(1) ***列車***	(2) レーダー｜外国車
	土地利用	(3) トラック｜路線｜空港	(2) 原子炉、高炉
		計11種	計7種
自然物および自然現象	物質	(2) 分子、(物質)	
	天地	(3) 大陸｜河川｜場面	(3) 鉱床、活火山｜湖沼
	身体	(1) 遺体	(1) 死体
		計6種	計4種

助数詞にあたるものは 365 種（準助数詞 226 種，擬似助数詞 139 種）であった。

意味分野ごとの分布では，〈人間活動 - 精神および行為〉にあたる語が最も多く 150 種（語例全体の 40.5%），次いで〈抽象的関係〉にあたる語の 110 種（29.7%）で，〈人間活動の主体〉は 68 種（18.4%）という結果となった。毎日新聞を対象とした調査（表２）では多い順に〈人間活動の主体〉，〈抽象的関係〉，〈人間活動 - 精神および行為〉の意味分野に属する語が得られていたが，異なる結果になったといえる。

５．２．準助数詞の意味分野ごとの分布

準助数詞に分類した 226 種の語例について，意味分野ごとの分布を見ると，最も多かったのが〈抽象的関係〉を示す語であった（93 種，41.1%）。準助数詞が抽象的関係に多いという結果は，新聞における調査（表２）のほか，東条（2020）における雑誌を対象とした調査とも共通する特徴である。また，今回得られた準助数詞の結果のうち約半数（119 種）が，新聞資料にも使用されていた語例であった（表１二重下線部）。新聞にも用いられていた語例は使用頻度も高く，分類項目「助数接辞」にあたるものも含まれていた。このことから，これらはより広汎に助数詞として使われる名詞であると考えられる。

また，〈生産物および用具〉〈自然物および自然現象〉にあたる語例がいずれも少ないという点も新聞と共通する特徴であった。これらは，名詞と同形でない助数詞がカバーできる範囲であるため，名詞の助数詞的用法が必要ないものと考えられる。

一方で，〈人間活動 - 精神および行為〉にあたる語例が多かった（75 種，33.1%）という点が「図書要約文」の特徴としては挙げられる。擬似助数詞においてもこの意味分野の語例が多かったため，資料的な特性であると考えられる。

５．３．擬似助数詞の意味分野ごとの分布

「図書要約文」の非容器型にあたる語例のうち，擬似助数詞が占める割合は 38.1%であった。新聞資料における擬似助数詞の占める割合（39.2%）とほぼ同程度といえる。

しかし，新聞資料の擬似助数詞が，もっぱら〈人間活動の主体〉に集中して

いたのに対し，「図書要約文」においては，〈人間活動の主体〉の語例も少なくないものの（34 種，24.4%），〈人間活動 - 精神および行為〉にあたる語の方が多い（53.9%）という結果となった。とくに中項目「言語」「心」にあたる語が目立つ結果となった。

６．図書要約文と新聞資料との比較

６．１．共通して見られた語例

図書要約文と新聞で共通して現れた語例 124 種を（5）に示す（擬似助数詞には下線を付した）。全体の 3 割程度が新聞で得られたものと共通していた。また，これらのほとんどは準助数詞に当たるものであった。

（5）図書要約文と新聞に共通して用いられていた語

〈抽象的関係〉52 語：ケース，項目，機種，業種，車種，ジャンル，種目，種類，職種，スタイル，タイプ，パターン，品種，部門，モデル，系統，段，段階，ランク，因子，成分，要素，コース，ルート，往復，シーズン，ステップ，地点，議席，区画，地域，地区，ブロック，分野，領域，サイズ，得点，チャンネル，単位，グループ，シリーズ，句，組，語，こま，字，シート，セット，つぶ，ページ，ポイント，ラウンド

〈人間活動の主体〉32 語（うち 8 語が擬似助数詞）

少女，少年，家族，兄妹，兄弟，姉妹，選手，作家，家庭，大国，都市，区，市，都道府県，教室，高校，大学，大学院，短大，駅，銀行，工場，店舗，病院，ホテル，施設，部隊，球団，クラス，クラブ，自治体，団体，チーム，バンド，法人

〈人間活動 - 精神および行為〉34 語（うち 3 語が擬似助数詞）

区分，分類，試験，テーマ，科目，教科，講座，原則，法，プラン，言語，タイトル，ブランド，銘柄，単語，文字，指標，文書，演目，品目，作品，カット，曲，安打，試合，盗塁，パット，ホール，本塁打，レース，大会，協定，株，企業，公演，場所

〈生産物および用具〉5 語：商品，食品，部屋，ドア，路線

〈自然物および自然現象〉2 語：大陸，場面

準助数詞は名詞と同形でない助数詞に準じて用いられるもの，と位置付けられるものである。助数詞として用いられることが浸透しつつある名詞であるため，文章のジャンルを問わず使用されるのが望ましい。異なる資料間で共通している語例に準助数詞が多いというのは，その表れであると考えられる。

それぞれの語例を確認すると，〈抽象的関係〉ではより類型を表すような語が，〈人間活動の主体〉では，具体的な行為主そのものを示すものというよりは機関や施設を表す語が多い。

一方，そもそも得られた語例の少なかった意味領域である〈生産物および用具〉〈自然物および自然現象〉では，共通する語例もわずかであった。それにも関わらず使われる語例を見ると，（車のドアの数や世界の大陸の数を表すために限定的な使用となる「ドア」「大陸」を除けば）「場面」「食品」「商品」「路線」など，限られた文脈ではなく，広汎に様々なものを指しうる語や，そのものを数えるために浸透しているもの[5]が並んでいると思われる。

擬似助数詞において，新聞と共通して用いられていた語は〈人間活動の主体〉（「高校」「大学院」「短大」「姉妹」「作家」）と〈人間活動‐精神および行為〉（「原則」[6]「指標」「協定」）に見られた 8 語である。広汎に用いられる語が少ないという結果は，臨時的に，文脈に依存して用いられるという，従来見てきた擬似助数詞の傾向と一致するといえる。

なお，得られた語例のうち「高校」「大学院」「短大」は，準助数詞「大学」と同じ小項目「社寺・学校」に含まれる語であり，指し示す教育機関の種類が異なるだけの同位語である。「姉妹」も同様に，「兄弟」と性差があるだけのほぼ同義の語と捉えてよいと思われる[7]。「作家」については「図書要約文」のみでも 11 例の用例が得られており，臨時的に用いられるという擬似助数詞の中では，比較的安定して使われる語であると考えられる。これらの語の位置づけについて考えるには，調査資料の種類をさらに増やすことが必要であると思われる。

６．２．図書要約文における擬似助数詞の用例の特徴

新聞における調査では，擬似助数詞は「A,B,C の 3 容疑者を逮捕」のような，数詞と名詞で示すものの内訳を列挙して共に示す，N ノ QC 型の構文に偏って用

いられるという傾向が見られた（東条 2014b）。しかし，「図書要約文」においてはこうした例はごくわずかで，(6) ～ (8) のように，取り上げる主題（小説における物語の中心人物などを含む）を整理して表示するために用いられていると考えられる。

(6) 陰守マモルはルックス＆勉強＆運動ダメの3ダメ高校生。その実態は，お隣に住む紺若ゆうなを陰守まりもと共に守る，最強の忍者なのだ！…え？まりも？そう，一見地味な彼女もまた，ゆうなを守るために現れた凄腕美人忍者だった！（略）

『もっと！陰からマモル〈２〉ラブストーリーは突然に』

(7) 色鉛筆，水彩色鉛筆，水彩絵具，クレパスの4画材での塗り方をわかりやすく解説。切り取ってそのまま使える塗り絵と美しい印刷の原画手本付き。

『はじめての大人の塗り絵教室―よくわかる80分DVD付き』

(8) オンライン英語能力判定テスト GTEC（Global Test of English Communication）。「読む」「聞く」「書く」「話す」の 4 技能が測定でき，グローバル展開する企業・団体などで活用されている。その受験ガイドから学習法までを網羅し，付属CD‐ROM収録ミニ模試の全解説も掲載したGTEC受験に不可欠の1冊。

『GTEC完全攻略―模試CD‐ROM付き』

「図書要約文」における用例のほとんどは，「ブレスレット，ネックレス，ストラップ，ベルトなど56アイテム」のように，数える対象の事物の内訳を一部のみ示す例か，内訳に全く触れず，数える対象の事物の数を単に示す，というものであった。そしてこれらの多くは，(9) や (10) のように，その書物がどれだけ豊富な情報を含むものであるのか，という，アピールポイントになりうる情報の総量を示すことを目的としたものであるように思われる。

例に挙げた「一挙」「網羅」のほか，「豊富な」「完全」「万全」「決定版」といった語が共起語に見られること，「全」「計」「約」といった接辞が数詞の前に使われていることも特徴的であった。

(9) ブログパーツや動画を載せたい！デザインを変えたい！322 疑問やトラブルが一挙解決！基本から一歩上を行くテクニックまで解説。症状から探せるトラブル別索引掲載。ケータイブログやアフィリエイトにも対応。 『はじめてのブログで困った！これで解決 ―Ameba 対応　FC2 ブログ対応』

(10) 主要 43 業界を網羅。約 1100 社の動向がひと目でわかる。 『日経業界地図〈２０１０（ポケット版)〉』

情報が豊富であることを示すこれらの表現は，擬似助数詞だけではなく，準助数詞の用例にも共通して見られた。

図書目録は本の内容を端的に利用者・消費者に紹介するという資料的特性を持つ。単に情報の豊富さを表示する場合には，何を数えているかの内訳は必要ない。そのため，内訳のないタイプの名詞の助数詞的用法では，「全」，「計」「約」といった接頭辞をつけて数量を強調させ，また「網羅」「収録」「掲載」といった語を述部に用いる傾向にあるのではないかと思われる。

具体的な内訳があることでイメージを想起しやすい場合にのみ，N ノ QC 型が用いられるが，この場合も，一文内で簡潔に情報を提示する表現になっているといえる。

新聞記事では，話題の中心となっている人物や事柄についての情報を示すために，文章内で何度も繰り返し言及する必要がある。例えば，報道文において，取り上げる事件の経緯を，容疑者の行動と共に記述するような場合がそれである。指示する対象に何度も言及する場合には，「3 容疑者」のように，名詞を助数詞のように用いるのが効率的である。

一方，図書目録のような，書籍の紹介を目的とした文章での数詞＋名詞は，新聞のように文章内で何度も繰り返し言及する必要がない。そのため，擬似助数詞自体も，新聞で多かった〈人間活動の主体〉の語がさほど目立たないという結果になったのではないだろうか。

また，新聞資料よりも〈人間活動―精神および行為―〉，とくに「心」や「言語」にあたる語が多かったのは，「アイディア」や「疑問」「考察」といった概念を表す名詞に数をつけることが，図書の内容のアピールにつながるためであ

ると考えられる。

なお，図書要約文においては，今回の調査対象には含めていないが，「4 つのシナリオ」「5 つのストーリー」のように「～つの○○」という形式のものも多かった。名詞の助数詞的用法に限らず，「紹介する」という目的の文章においては，数量表現が用いられやすい資料的特性があるように思われる。

７．まとめと今後の課題

本稿では，「名詞の助数詞的用法」が新聞以外の他の媒体において，どの程度得られるかについて，新聞とは異なる書き言葉資料である書誌データベース内の要約文を中心に調査を行い，新聞資料と比較しながら特徴について検討した。

2 つの資料に共通して見られる語があること，そしてそのほとんどが準助数詞であるなど，新聞以外の資料における名詞の助数詞的用法の一端を確認できたと思われる。

しかし，「図書要約文」において助数詞的用法となっていた語例，特に擬似助数詞については，新聞とは異なり，〈人間活動―精神および行為―〉意味分野の名詞が多いという結果となった。これは，本資料が「図書利用者（購入者）への紹介」という目的に基づいて作成された文章であり，そうした資料的特性の影響を受けた結果であると考えられる。新聞に多かった「A,B,C の 3○○」タイプの表現についても，新聞とは異なる表現意図がある可能性がある。

新聞と異なるジャンルの文章を調査したことで，名詞の助数詞的用法，特に擬似助数詞が，資料の目的・特徴に左右されやすいものであることが分かった。

個々の語例の使われ方についての詳細な検討を行うこと，また，他のジャンルの文章における調査を重ねていくことで，傾向をより明確にしていくことができると思われる。今後の課題としたい。

注

１）https://www.nichigai.co.jp/dcs/index6.html

２）雑誌，学習コミック以外のコミック，受験参考書については採録から除かれている。

３）分類語彙表に記載のなかった語（異表記によるものは除く）は以下の通り：

アカウント，アクセス，兄妹，アプリ，エコ，会計事務所，介護サービス，管理項目，キーフレーズ，技術部門，基礎知識，基本用語，キャラ，行政区画，業務派遣，魚種，クエスト，研究科，犬種，公共財，工種，語呂，司教区，支族，実務協定，司法制，重巡，重賞，重要判例，女性経営者，ジョブ，信用組合，診療科，スーパー戦隊ヒーロー，スキル，政経人，整骨院，節税相談，全詩集，大陸戦，たれ，チャプター，鉄道事業者，ドームツアー，ドット，ドメイン，にゃんこ，ネタ，ビジネスグループ，ペナ，本安打，名盤，メガ損保，メジャーフィールド，メゾン，有名大学，レシピ，ワード（計 58 語）

4）東条（2014a）より，容器型助数詞であるものを除いたもの。() 表記しているものは「何-」を付加している例が 1 例であったもの，イタリック表記のものは副詞的位置に生起可能であったものである。

5）田中（2019）では「路線」は名詞から助数詞に用法拡張したものとして論じられている。

6）「原則」は抽象度の高い語であるため，「何原則」という用例こそ得られなかったが，数に制限を設けずに使用し，数え上げることも（内省では）可能と思われるため，準助数詞に近いものと考えられる。ただし，副詞的用法となる NCQ 型は作成しづらい。

？守るべき原則が 3 原則ある。

7）「姉妹」「兄弟」「兄妹」等は，眞野（2021）では「3 例」「3 大学」と同様に，「名詞の数を数詞が示す関係」と位置付けられているものであるが，「3 姉妹」という表現はそもそも姉妹の数を数えるものではなく，姉妹と称される人数が何人かを示す（3 組の姉妹ではなく，3 人姉妹であることを指す）ものであるため，対象から外すのが適切とも思われる。

参考文献

国立国語研究所（2004）『分類語彙表―増補改訂版』大日本図書.

田中佑（2012）「日本語助数詞の範囲―名詞と助数詞の連続性―」『筑波応用言語学研究』19，117-126.

田中佑（2015）『近現代日本語における新たな助数詞の成立と定着』筑波大学博

士論文.

田中佑（2019）「名詞「路線」の助数詞への用法拡張―数量詞の意味的機能の観点から―」『日本語文法』19(2), 35-50.

東条佳奈（2014a）「名詞型助数詞の類型―助数詞・準助数詞・擬似助数詞―」『日本語の研究』10（4）, 16-31.

東条佳奈（2014b）「名詞型助数詞の構文と傾向」『待兼山論叢』日本学篇　48, 83-100.

東条佳奈（2020）「《報告》BCCWJ における「名詞の助数詞的用法」について―雑誌資料を例に―」『待兼山論叢』日本学篇 54, 65-79.

成田徹男（1990）「名詞と同形の助数詞」『都大論究』27, 1-8.

眞野美穂（2021）「名詞と助数詞の間」岩男考哲・坂本智香・建石始・益岡隆志・松瀬育子・眞野美穂『名詞研究のこれまでとこれから』67-85, くろしお出版.

眞野美穂・米澤優（2013）「生成語彙理論による助数詞の分析」『レキシコンフォーラム』6, 139-170.

Downing, Pamela A.(1996)*Numeral classifier systems: The case of Japanese.* Amsterdam; Philadelphia: John Benjamins Publishing.

参考資料

『学術研究用 BOOK データ集 10yrs』日外アソシエーツ.

（人文学研究科講師）